

ENERGY FRONTIER JOURNAL



エネルギーフロンティア ジャーナル 2024年 夏号 目次



- 時事解説
『エネルギー基本計画』見直しの論点は？
- エネルギーフロンティアの事業紹介
「電力を極力使用しない」生活を目指しませんか？
- エネルギーフロンティアのひとり言
海の中でも温暖化が進んでいます
- イベント情報
『長期脱炭素電源オークション』ほか

VOL.53



『エネルギー基本計画』見直しの論点は？

猛暑を予感させる日射しが注ぐ季節になりました。くれぐれも、熱中症などにお気をつけて、夏をお過ごしいただければと思います。さて、2021年に策定された、現在の『エネルギー基本計画』が、今年、**見直しの時期**を迎えています。2024年夏号では、特に注目される論点を挙げつつ、今後の議論の行方について考えてみたいと思います。

注目される『エネルギー基本計画』の論点

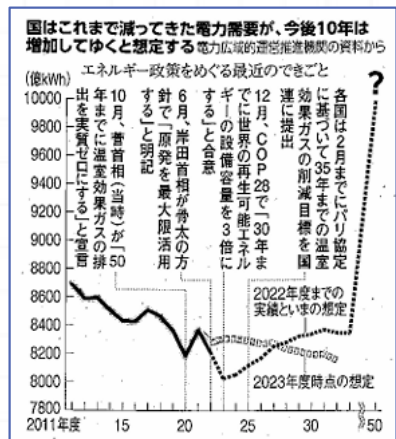
今回の『エネルギー基本計画』見直しに関して、**特に注目される論点**を2つ挙げます。

- ① データセンターの急速な増設等に伴う**「電力需要増加」**への対応
- ② **「原子力回帰」**の政府方針への国民的議論

それぞれの論点の背景と冷静な議論への道筋を整理してみたいと思います。

「電力需要増加」の“不都合な真実”への悩み

日々進化する**スマートフォンの性能**や**「チャットGPT」**など、**AIの発展**が目覚ましいことは言うまでもありません。しかしながら、非常に便利になる反面、その舞台裏では膨大な演算機能等が必要となるため、処理能力が追いつかず、**データセンターが次々と増設**されています。結果的にデータセンター等で使用する**電力需要**や発熱を抑えるための**空調電力**等、**膨大な電力負荷の増加**を引き起こしています。2011年の東日本大震災以降、**省エネ努力**や**再エネ導入**により、毎年、確実に減少してきた**電力需要のトレンドが崩れてきています**。いわば**“不都合な真実”**が、**エネルギー基本計画見直しの悩み**の1つになっています。



出典：朝日新聞「エネルギー基本計画関連記事」

『原子力回帰』政府方針への国民的議論の必要性



出典：経済産業省「高速炉実証開発事業」予算資料

今回のエネルギー基本計画に先立ち、岸田首相は、2022年12月に公表した**「GX実現に向けた基本方針（案）」**において、2011年3月に起きた**福島第一原発事故の教訓**を受けて従来の首相が踏襲してきた、**「可能な限り原子力を低減する」**という大原則に関して、「閣議決定」という形で**「原子力回帰」**への方針に**大転換**しました。既設の原子力発電所の**40年稼働ルール**も、いつの間にか、例外的であるはずの**60年稼働が当たり前**になりつつあるのが現状です。

さらには、**「次世代型原子炉」の開発強化**など、**高速増殖炉もんじゅの廃炉**や、**核燃料リサイクル構想の混迷**など、**“トイレの無いマンション”**とも言われる**原子力発電の問題点**を全く解決しないまま、高まる電力需要のための電源確保への切り札のごとく、いつの間にか、**「原子力回帰」へのレール**が敷かれてしまっていることを懸念します。

他にも、**電気自動車への転換が「脱CO2」への前提**のような空気になっていますが、**膨大に必要となる電気の確保**や、**再エネ由来の電源**の普及拡大、**再エネ電力の変動を吸収する蓄電池**の開発とコストダウンなど、非常に重要な課題に対して、**“思考停止”**のまま時間が流れている印象は否めません。結果的に**“原子力がやっぱり必要ですね？”**と思わせるシナリオに、**我々国民は、知らないうちに巻き込まれていないでしょうか？**

「電力を極力使用しない」生活を目指しませんか？

皆さま、ここは暑い夏に少し立ち止まって、**冷静に自分の周りの生活を見直してみませんか？**こんな状況のまま**「2030年▲46%CO2削減」**や**「2050年カーボンニュートラル」**は実現できるのでしょうか？**“美麗美句”**で彩られたテレビコマーシャルに惑わされて、**“自分ごと”**として捉えることから逃げていないでしょうか？確かに熱中症への対策は必要ですが、だからと言って、**“節電”**という言葉は**“死語”**になったがごとく、**“皆さん我慢せずにエアコンをつけましょう！”**と言われるままに、**電力を浪費することによって、一体何が起こるのか？考える必要はないでしょうか？**

「電力を極力使用しない」生活ってどんな事が考えられるでしょうか？

まず、自分の日々の生活から考えてみましょう。いまや生活に手放せなくなってしまう**スマートフォン**、**これ以上の機能が必要でしょうか？**電話と写真やメールくらい出来れば十分と思いませんか？より充実した機能を使用したい人は、平均的な電力以上を使用する場合、**追加費用を払ってもらったらどうでしょう？**逆に、平均的な電力を使用しない生活を送っている方には、より**電気代を割り引く制度**を導入してはいかがでしょうか？自慢ではないですが、我が家では、年間を通じてエアコンをほぼ使用しません。生活習慣というものは怖いもので、**快適な生活**に慣れてしまうと、**抜け出すことが至難の業**になることは、電気以外においても、皆さま実感されていませんか？

社会全体で「電力を極力しない」生活の可能性はあるでしょうか？

街を見廻すと、**コンビニエンスストアが乱立**しています。顕著な例では、同じ交差点に同じコンビニが2つあったりします。人口が減少して、物価が上昇して、生活が苦しくなっているトレンドのなか、**本当にこれほどのコンビニが必要なのでしょう**か？**全ての店舗が24時間稼働している必要がある**でしょうか？世界を歩くと、日本の道路にある**自動販売機の多さ**に気付かされます。いわば、**街に冷蔵庫が溢れている**状況です。**スーパーに行っても買えば良くないですか？**お店に入ると、これまた冷凍食品などが囲いも無しに手に取れるようになっていて、お店の中は**冬のような寒さ**になったりしてませんか？**ジュース**だって、冷たい製品を買い求める人はそれなりの対価を払い、冷えてない製品を買い求める人には安くして、**それぞれの家で冷やすようにすれば十分と思いませんか？**こんな事を言い始めると、電力需要が減って、売上が減って、経済が縮小するという**“神話”**が顔を出してくる予感がします。これこそ、**既得権**を守ってきた方々にとっては、**“不都合な真実”**につながるシナリオなのかも知れません。

今こそ『エネルギー基本計画』に国民が参加することが必要では？

従来の**「エネルギー政策」**は、政府サイドからの**“トップダウン”**で決定されてきた経緯は否めません。『**エネルギー基本計画**』についても、**「意見募集」**という形で国民参加の道が開かれているというものの、**議論に参加しているとは言い難い**状況です。つまり、**“ボトムアップ”**で議論することも重要と思います。皆さんが、**“自分ごと”**として**「エネルギー問題」**を捉えて、呑み屋さんでの普通の話題として**意見を交わしたり**、更なる**省エネへのアイデア**を生み出したり、**極力電気を使用しない生活のアイデア**を募集したりして、**皆さんで電力需要を抑えることを必死で考えてみたら**、一気に成果が出ることだって**夢物語ではない**気がします。もう少し大きな視点に立つと、製造業等を継続する限り**電力多消費型の業態**からは逃れられません。例えば、いま一度、**農業や林業や水産業など1次産業の仕組みを見直して**、今後、**1次産業に従事する若年層を優遇する政策**を提示することにより、**電力需要の低減**だけでなく、**食料自給率の向上**、**地方過疎化への対策**など、**社会問題の解決にも繋がる可能性を秘めている**と感じます。ぜひ、皆さまも『**エネルギー基本計画**』**見直しに注視**していただきたいと思います。

EFのひとり言

イベント情報

E-Mail : info@energyfrotier.jp HP : <https://www.energyfrontier.jp>